

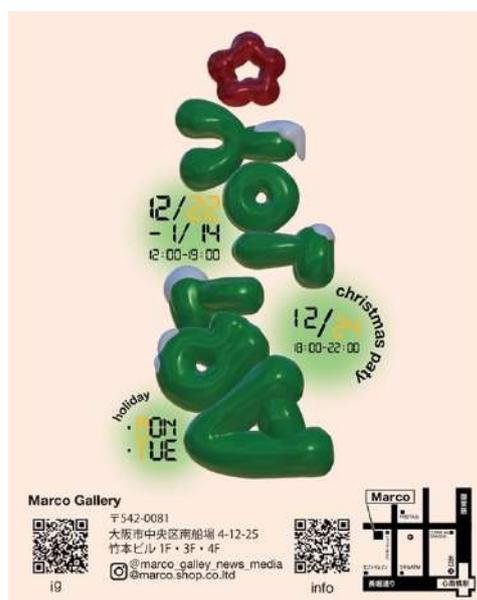
Group Exhibition

“TOY”

KOMI、BOCKY、岩崎拓也、中畑良孝、亀山晴香、北浦和也、佐川好弘、和田峻成、野々上聡人、空閑渉、Ryu Jeyoon、西村卓、木村舜、神出謙、古田充、谷村メイチンロマーナ、Kamerian.

2023/12/22 -2024/1/14

Marco Gallery 1F



この度、Marco Gallery では総勢 17 名の作家による全てが立体作品で構成されたグループ展“TOY”を開催致します。

「TOY(おもちゃ)」をテーマに、様々なジャンルのアーティストが一同に介し、Marco Gallery が作品屋へと生まれ変わります。
素材も技法も違う 17 名の作家は一体どのような「作品」を展示するのか。私たちに^{おもちゃ?}にとってのアートとは、一体何なのか。そんなことを考えながら、本展をお楽しみいただければ幸いです。

[以下、本展ステートメント]

TOY(おもちゃ)は、老若男女問わず人の心を魅了する。少なくとも私は幼い頃から魅了されてきた。知らぬ間になくなった子供の頃に好きだったおもちゃが、大人になってからふと道を歩いているときに、目にはいると思わず、どきっとして欲しくなったりする。それくらい魅力的だ。

そんなおもちゃの歴史を紐解くと、一説には元々、儀式の場での神様への供物だったりするらしく、それが現在のおもちゃへと続いているという。

本展では、このクリスマスから年末年始というまるで我々にとって儀式のようである時期に、おもちゃのような子供心あふれる作品群を一堂に介した展覧会を行います。

Marco Gallery 著



KOMI



KOMI は、人間のことを球体のようにだと言っていた。それはつまり、人間とは、シームレスで多面性に富んでいて、時々合わせた側面を持つ生き物だと言っているのではないかと思う。これは KOMI 自身にも当てはまる。KOMI は、毎年決まった時期に山車を引き、スケボーをし、ラップをして、木工もする。いろんな側面を持ち合わせているが、どれも KOMI 自身なのである。こんなふうに色々な側面を持ち合わせていると、私はいったい何者なんだろうというどこかへの帰属意識というものがふっと湧いてくる時がある。

色んなところに帰属するという事は、逆に、どこにも帰属していない、まるでエイリアンのような感覚に襲われる。現代において、オンラインとオフラインの平行ワールドが行き交う中では、出どころのわからない紐があまりにも絡み合い、私はどこの誰なのかというアイデンティティにまつわる問いが幾重にも折り重なっている。

その中で、KOMI は、どこかに帰属している自分というわけではなく、あくまで自分は自分であるというスタンスでプレイしているように見える。その彼の姿勢は、スケーターであっていいし、山車を引く人でもいいし、木工をする人でもいい、エイリアンでもいいといったようである。そんな彼の姿勢からは、我々の目の前に広がる複雑に絡まったように見える世界は、実は案外いとも簡単にほどけるようなものなのかもしれない、という気にさせられる。



BOCKY

10代の頃に感じた、アニメ・漫画・池袋カルチャーを通してストリートアートの世界にのめり込む。



言葉の必要ない自由でラフな世界感に心を突き動かされ『遊び』というテーマをもとに都内近郊を拠点に LIVE ペイント活動を行う。空間で感じたインスピレーションを大切に、その瞬間でしか描けない作品を表現していく。2019年 ART BRAND 『AFRICAN TOYS and SWITCH BOMB』設立。AFRICA MADE の木彫り作品、JAPAN MADE のソフトビニール製のフィギュアの販売を開始。自身が描くオリジナルで POP なキャラクターを、国境問わず様々なスタイルと融合させ、発信中。枠に囚われず自身が遊びを通して感じたカルチャーを、自由に表現し活動中である。

<CV>

- 2023 『SUPER BOMB DUNS』 @HARAJUKU HOURS
- 2021 『URBAN JUNGLE』 @UNKNOWN HARAJUKU
- 2020 『音人で子供でボム!!』 @原宿デザインフェスタギャラリー
- 2020 『RUEED STORE』 @THE TARMINAL
- 2020 『音人で子供でボム!!』 @原宿 ONECC
- 2019 『SUPER FESTIVAL 83』 @科学技術館
- 2019 『TOKYO COMIC CON』 @幕張メッセ
- 2019 PUNKDRUNKERS 『だいたい 20 周年展』 @池袋 PARCO 本館 7F コラボ作品展示
- 2019 『BOOT GRAPHIC BOMB』 @東長崎 CHICK FLICK BAKE SWITCH BOMB x JEOFF 個展
- 2019 『BOOT GRAPHIC BOMB』 @中野 HEVYSICK SWITCH BOMB x JEOFF 個展
- 2018 『SPIRITUALL TOON BOMB』 @JAMES 朝霞台 SWITCH BOMB 個展
- 2017 『夢御殿～水のしわざ MZTMR』 @夢御殿 築 80 年を迎える生まれ育った実家をキャンバスにした個展
- 2017 『SWITCH BOMB EXHIBITION』 @下北沢レインボー倉庫 SWITCH BOMB 展示会



岩崎拓也/Takuya Iwasaki

「秘密の花園」をテーマに架空の世界を具現化し、制作しています。

<CV>

Solo Exhibition

2023 個展「小さいおじさんの物語」/gallery Blue

2022 個展/永井画廊

Group Exhibition

2023 「LOVE art PEACE」/gallery fu

2023 「Dessin」-モノクロームの表現-/Gallery 郵

2022 「gift from...to...」/gallery fu

2020 日本の絵画-2020-/永井画廊

2020 第38回上野の森美術館大賞展/上野の森美術館

2019 「Dessin」-モノクロームの表現-/Gallery 郵

2019 「天空の芸術祭 2019」-記憶の場所、巡る時間-

2018 秘密の花園（3人展）/MASATAKA CONTEMPORARY

2018 「渡、界。」/de heart center gallery（上海）

2018 第一回アジア太平洋美術展（首届亚太艺术展、中国）

1988 神奈川県横浜市生まれ。

2022 東京芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻油画技法・材料研究分野 修了

2019 東京芸術大学美術学部絵画科油画専攻 卒業

2009 日本工学院専門学校インテリア・プロダクトデザイン科 卒業



中畑良孝/yoshitaka nakahata



木を素材として作品を制作。人物を主にモチーフとしタイトルに思考、発見、伝聞、事実をのせる。

子供の頃にオモチャのロボット達を戦わせて延々とごっこ遊びをしていた。オチは無くエンディングも迎えずに。設定だけ盛り込んで。その物語は、大体は母親の夕ご飯の合図で終了となるのだけれど。

僕の作る作品はその時のオモチャがなのかもしれない。

<CV>

Solo Exhibition

2022 個展「過去、現在、未来(仮)」ギャラリーkingyo

2023 個展「1/600,000,000」ギャラリーいちょうの木

Group Exhibition

2023 「KONSHIN 展」 ギャラリーUG

1986 福岡県生まれ

2012 東京造形大学彫刻 卒業

2013 二科展 彫刻の森美術館奨励賞

2014 多摩美術大学大学院彫刻 修了



亀山晴香/Haruka Kameyama

「娯楽」と「矛盾」をキーワードに、玩具などを用いて作られたジオラマ写真とキャラクターのアナログペインティングを融合した作品や、スマートフォン用画像加工アプリを制作技法として加える作品などを主に制作している。



<CV>

Solo Exhibition

2023 個展「Water mirror」Shalom Shalom(台湾)

Group Exhibition

2023 3人展「High voltage」GALLERY SCENA(東京)

2023 「エピソード ONE 次世代アーティスト 11人展 Vol.2」阪急うめだ(大阪)

1998 宮城県生まれ。

2022 東北芸術工科大学大学院芸術文化専攻絵画領域 修了



北浦和也/Kazuya Kitaura

郷土玩具や童話・SF ファンタジーなどに登場してくる動物や人等のモチーフを組み合わせ、1つの木の塊から彫り出された彫刻は、荒々しい彫跡とポップな色彩で、ファンシーでポップでシュールな作品を制作しています。



<CV>

2023 六甲ミーツアート beyond / 六甲高山植物園 (神戸)

「おのおの」/PERHAPS (佐賀)

個展「TOY!」/skiima gallery (大阪)

他

2023 既知との遭遇 北浦和也×やんツー / 京都精華大学 Demachi (京都)

個展「PUFF」/VOU (京都)

MIND TRAIL 奥大和 心のなかの美術館 /曾爾村 (奈良)

他



佐川好弘/Takahiro Sagawa



人の感情に関わる事象を扱う。

メッセージを漫画の飛び出す文字の様に立体化した野外作品や、パフォーマンス、コミュニケーション、彫刻など、様々な表現で、センシティブでイノセンスな感情に働きかける事が多い。近年はインタラクティブと祈願をかけた合わせた参拝アートを模索している。

<CV>

Solo Exhibition

Note Gallery/大阪

GALLERY wks./大阪

GALLERY はねうさぎ/京都

Group Exhibition

2023 シダレミュージアム/神戸

2022 シダレミュージアム/神戸

2022 あまがさきアートストロール/神戸

2021 「文字からの世界線」 KUNST ARZT/京都

2019 「六甲ミーツ・アート 芸術散歩 2019」/神戸

2018 「六甲ミーツ・アート 芸術散歩 2018」/神戸

2013 アーティストインレジデンス/モロッコ

2014 「六甲ミーツ・アート 芸術散歩 2014」/神戸

2013 HAPPY SPOT NARA・奈良障害者芸術祭/奈良

2010 「ArtCourtFrontier#8」アートコートギャラリー/大阪

2009 「放課後の展覧会」元立誠小学校/京都

Award

ROKKO MEET ART 2014 準グランプリ

Public

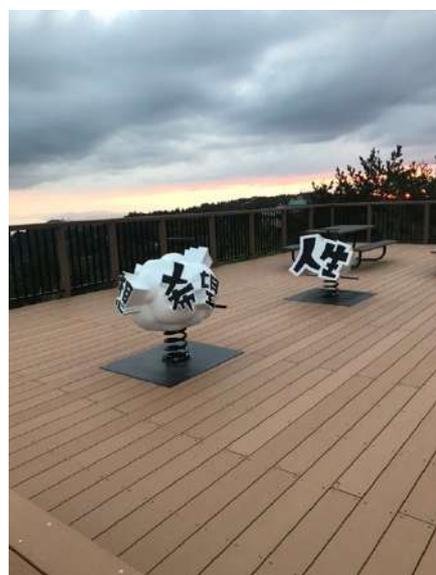
六甲ガーデンテラス「#ROKKO」モニュメント

六甲ガーデンテラス「あっというまスライダー」

バンドー神戸青少年科学館「胸の土器土器」

1983 大阪府 生まれ

2005 大阪芸術短期大学部専攻科修了



和田峻成/Shunsei Wada

幼少期の拙い記憶から、日常で浮かんでくる出所不明のイメージや違和感を日常的にドローイングとして描く。それらを起点に様々なマテリアル（オブジェクト）を組み合わせ、異物同士が重なり合うことでズレていった空間を、個人にとっての「超現実（めっちゃいま）」という概念として捉えイメージを生成している。

また、carvecrveholiday (CCH) 名義でタトゥーアーティストとしても活動している。



野々上聡人/Akihito Nonowe

絵を描き、木を彫り、アニメーションを作る人。

何がいいのかわかんない、いいのかわかんない、でも目が離せない。

そういうのがいい。

<CV>

Solo Exhibition

2022 Gallery10[TOH] 東京

2021 mograg GALLERY 東京

2010 TACHELES ベルリン

Group Exhibition

2023 DIESEL GALLERY 東京

Award

2019 新千歳空港国際アニメーション映画祭 審査員特別賞

2020 岡本太郎現代芸術賞 岡本太郎賞



空閑渉/Sho Kuga

編み物や既製品の服・靴・日用品など、身の回りにあるものを金属（アルミニウム）に置き換える鑄造技法を主な制作方法とし、時間とともに経年変化してしまう素材を半永久的に形を止め、インスタレーション作品として発表している。

熱を帯びると流動し、冷めると固まる特性を持つ金属と布などの人にとって身近な素材を組み合わせることで、現代に生きる自身の記憶や死生観などをテーマに制作をしている。



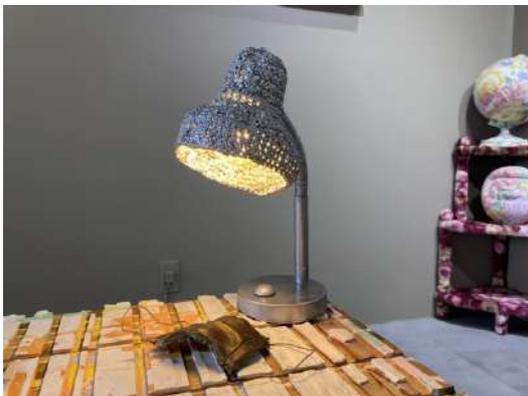
<CV>

2022 「The FICTION-ONE'S ROOM」(大阪)

2022 とおくをのぞく(静岡)

2023 鑄物・異物・遺物 IMONO・IMONO・IMONO- 作業を行為にする-(静岡)

2023 HARAIZUMI ART CAMP (静岡)



Ryu Jeyoon



子供の頃、今は誰なのか思い出せないある友人の家に置かれていたロシア人形マトリョーシカ。韓国は国家不渡り危機という歴代級の不況期を経験していた時代だった。皆が大変な思いをしている中、我が家も同じだった。幼い頃はあれほど魅力的だと感じ、強く欲しかった物が、今はその時ほど所有欲求が入らないということは、私の生きる世界が拡張され変わったためだとも思うのである。

マトリョーシカの誕生は、日本の木彫り人形、七福神の福祿寿から始まったという。福祿寿を見たロシアの児童書の挿絵家セルゲイ・マリユティン(sergeimalutin)によって、ロシアの情緒を込めて伝統衣装のサラパ(sarafan)を着て鶏を持っている女性の姿に生まれ変わった。この因果関係は、上記の私の世界の拡張につながる。日本の木彫り人形にインスピレーションを受けて作られたマトリョーシカはロシアの様々な人物によって形態を変化させてきたし、私もまた韓国の小さな島で生まれ、ソウルという大きな都市で成長して、日本という国に住むようになり、その間の色んな出会いと経験を通じて私が生きる世の中を変えながら内外面を変化させてきた。

マトリョーシカは人形を抱いている姿が卵を包んだ姿のようだと行って、「卵を抱いた人形」(Nesting Doll)とも呼ばれる。割れやすい陶器の中は空洞である。表と裏が存在して表と外を断絶する壁の中はまた別の世界と言える。まるでヘルマン・ヘッセの本「데미アン」で登場した「卵」のように。自分の世界を構築している外皮を剥がして中に入ればまた別の世界があり、内面に食い込むほど別の次元が存在したり、一方、外は多様な経験が蓄積され華麗に飾られているようにも見えるが、中に入れば入るほど幼い頃の自分に回帰したりもする。

<CV>

Solo Exhibition

- 2023 「沼の夢、沼の部屋」 / studio J・大阪
- 2023 「生きてゆく英雄達」 / Gallery KKI・ソウル
- 2022 「母国へ送る手紙」 / Gallery SEIN・ソウル
- 2022 「彫刻日記」 / Seoul Forest Ceramic Studio・ソウル



1990 韓国生まれ

2009 韓国陶芸高等学校卒業

2015 慶熙大学校陶芸学科学士卒業

2019 京都市立芸術大学陶磁器専攻研究留学生過程修了

2021 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程陶磁器専攻修了



西村卓/Taku Nishimura

たしかに「アート」と「おもちゃ」は似ている気がする。

昔はとも近く、ピュアに関わっていた

はずなのに、大人になるに連れて遠く離れた存在になる。

本展での出品作は、子供の頃に使っていた玩具を作品と組み合わせてみた。

特に「インスタント彫刻 -デリバリー&スカルプティング-」は、不動のはずの彫刻を届けたい人や持っていきたい場所へ持って行くことができる。

そんな彫刻があってもいい。

<CV>

Solo Exhibition

2023 原泉アートデイズ！/静岡県掛川市原泉地区一帯（静岡）

2022 原泉アートデイズ！/静岡県掛川市原泉地区一帯（静岡）

2022 NEW ENERGY/新宿住友ビル三角広場（東京）

2018 銀座蔦屋書店主催「拡張都市」/銀座蔦屋書店（東京）



木村舜/Shun Kimura

人間社会や世界の動き、自分自身を含めた「人間」と対峙し、その過程で生まれる思想や考察、空想を自身の言葉や絵画、彫刻等様々な手段を用いて制作、表現する事によって自身の存在意義や人間の精神や本能、その中に存在する醜さや希望等を作品として創出し、自身が考える人間を創出する。



<CV>

2023 RUST HUMAN(ギャラリーヒルゲート/京都)

2023 なんぞやひととはとうこととみじかいいろべんしる(artspace co-jin/京都)

2022 ARTISTS' FAIR KYOTO: SATELLITE 2022 GOLDMEMBER 2022(下鴨茶寮/京都) 2023 年

2021 人/Huanity (YUKIKOMIZUTANI GALLERY/東京)

1992 京都府生まれ

2015 京都造形芸術大学(現 京都芸術大学) 美術工芸学科 総合造形コース 卒業

2017 京都造形芸術大学(現 京都芸術大学) 大学院 芸術専攻 修了



神出謙/Ken Kamide

幼少期に遊んだおもちゃやコミックなどのアメリカンポップデザインに影響を受けたカラフルでデコラティブな作品を主に制作。

2022年の卒業制作展では、無駄の豊かさを楽しむカニむき機『クラブクラッシャー』を制作。2022年東京藝術大学大学院に進学。現在デザイン科第7研究室に在学中。



<CV>

Solo Exhibition

2023 個展「FEAST OOPARTS」 Marco Garelly

Group Exhibition

2022 第70回 東京藝術大学 卒業・修了作品展

2022 グループ展「MMULLTIPPLE」 Marco Garelly

1997年生まれ。兵庫県神戸市出身。

2018年東京藝術大学美術学部デザイン科に進学。



Kamerian.

グラフィックアーティストとして国内外で活動。タトゥーアートやアニメーション、漫画などから影響を受ける。

シルクスクリーンを主な技法として用い、よく知られた寓話や大衆文化をモチーフに欧米アニメを彷彿とさせるような強い輪郭線と色彩で倒錯的な世界観を作り上げる。

近年は国内のみならずスイスにて個展、アメリカやオランダ、香港でのグループ展など、海外でも積極的に活動している。



<CV>

Solo Exhibition

- 2023 「CANDY」(銀座蔦屋書店)
- 2022 「ADDICTION」(marco gallery)
- 2022 「RABBIT HOLE」(mograg gallery)
- 2022 「LINGA」(NADiff)
- 2021 「33.」(Meets by NADiff)
- 2020 「FLASH」(VINYL TOKYO)
- 2019 「Sonnambula」(mograg gallery)
- 2018 「PINK ELEPHANT」(ヴァニラ画廊)
- 2017 「ACID PORN」(Museum Of Porn In Art)
- 2016 「Skin.」(新宿眼科画廊)
- 2015 「Fuglyland」(ヴァニラ画廊)
- 2014 「LIBIDO MONSTER」(ヴァニラマニア)

Group Exhibition

- 2023 ART TAIPEI (Taipei,Taiwan)
- 2022 ART SESSION (GINZA TSUTAYA BOOK STORE)
- 2022 ART TAIPEI (Taipei,Taiwan)
- 2022 MULTIPLE (marco gallery)
- 2022 POPLAND2.5 (kochxboss gallery)
- 2021 "Emerging To Established" annual summer group show (krausegallery)
- 2019 ORGY Group exhibition (Museum Of Porn In Art)
- 2018 "Emerging To Established" annual summer group show (krausegallery)
- 2018 INSIDE artzine-25 years of art scum- (ヴァニラ画廊)
- 2017 GOREDECK TOKYO (mograg gallery)
- 2015 「Condensed Vanilla 2015」(ヴァニラ画廊)
- 2015 Kamerian.×MIRAI 二人展 「kaleidoscope」(新宿眼科画廊)
- 2013 「ゴアデッキ大阪」(excube)
- 2012 「geisai#16」(流通センター)
- 2012 「アーティスト・アジト〜ミラー・ワールド編 (3331 geisai gallery)



古田 充/Mitsuru Furuta

1994 福岡県出身

2016 京都造形芸術大学卒業

現代人による現代人の為の情性的な身体彫刻を制作している。



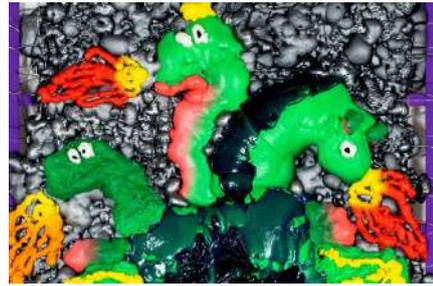
<CV>

ARTISTS' FAIR KYOTO

Kyoto BAL STARBUCKS



谷村メイチンロマーナ



1998年東京生まれ。東北芸術工科大学修士課程芸術学部複合芸術領域 修了。

2020年度卒業/修了制作展にて洋画コース最優秀賞。

ソフビやカートゥーンの格好良さに魅了されたクレイジー・クリエイター「タニムラ・メイチンロマーナ」。荒れ果てた世界を救う為、様々な素材を使い家臣のモンスターたちを作り使役し続けている。世界の結末やいかに！？

<CV>

主な展覧会

「ROMANA TOY STORE」 myheirlooom

「劇場版 Yoona Love Kim&Romana Machin Tanimura-意外な遭遇、ウサギと怪獣大冒険！」 Pie (ソウル/韓国) など。



Group Exhibition “TOY”

出展作家：KOMI、BOCKY、岩崎拓也、中畑ヨシタカ、亀山晴香、北浦和也、佐川好弘、和田峻成、野々上聡人、
空閑渉、Ryu Jeyoon、西村卓、木村舜、神出謙、古田充、谷村メイチンロマーナ、Kamerian.

開催日程：2023年12月22日（土）～1月14日（日）※12/28-1/2まで休廊

クリスマスパーティー：2023年12月24日（日）18:00-22:00

営業時間：12:00-19:00

会場：Marco Gallery 1F

Marco Gallery

〒542-0081

大阪府大阪市中央区南船場 4-12-25

竹本ビル 1F,3F,4F

Tel : 06-4708-7915

E-mail : info@marcoart.gallery

営業時間 : 12:00-19:00

定休日 : 月曜日,火曜日

〒542-0081

Takemoto Bld 1F,3F,4F, 4-12-25, Minamishinbashi,

Chuo-ku, Osaka-shi, Osaka, Japan

Tel : 06-4708-7915

E-mail : info@marcoart.gallery

Business Hour : 12:00-19:00

Holiday : Monday, Tuesday

